

非核平和事業「平和な未来のために」



一九四五年八月六日午前八時十五分、人類史上初めて原子爆弾が広島に投下されました。
 そして二〇〇三年八月六日、わたしは広島平和祈念式典に参加しました。この日も五十八年前と同じように、太陽の照りつけるとても暑い日でした。
 黙とう。この時わたしは思い浮かべたのは、焼け野原になってしまった街、強烈な熱線によってやけどを負ってしまった人々など、悲惨な情景ばかりでした。わたしが訪れた広島は、暖かく平和な街でした。原爆投下により壊滅的な被害を受けましたが、広島市民の努力により、現在のような発展をしているのだと思います。
 白根市非核平和研修では、原爆の恐ろしさだけでなく、平和の大切さをあらためて実感し、自らの手で守り続けることを誓いました。



田中 由貴
(白井中学校)

平和祈念式典に参加して



石附 直之
(白根第一中学校)

平和

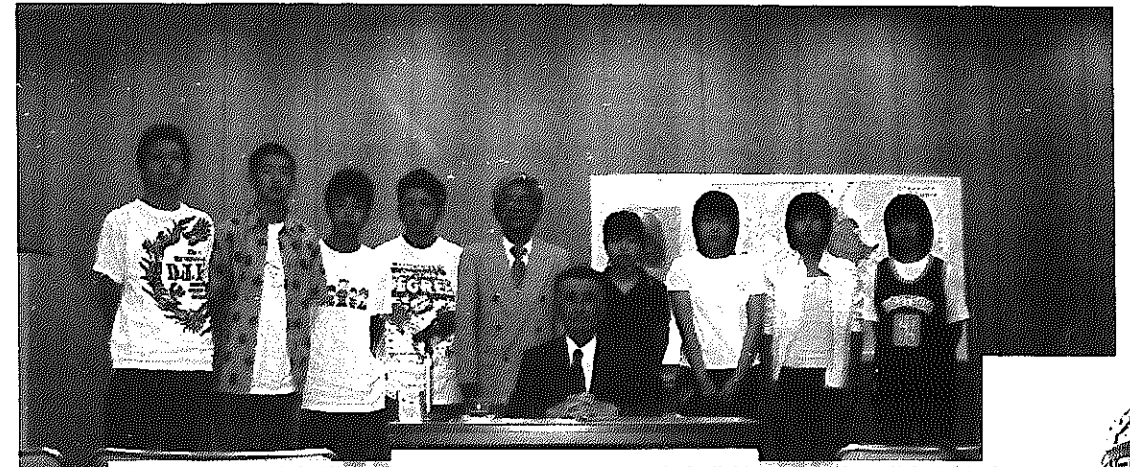
広島にはいろいろな人たちがいます。平和記念資料館では、原爆の持つ力や被害を示す資料、ほろほろになった衣服などの遺品を真剣に見つめる人。平和祈念式典では、被害の大きさや恐ろしさ、悲しみ苦しみを話す代表の子供たち。自分の被爆体験を必死に伝えようと話してくれた人。僕たちが講話を聞いた小松さんは、放射線によって今だに足が痛むことがあると教えてくれました。広島の人々の真剣な様子は、強く印象に残っています。
 広島の人々は五十八年前の被爆体験を原点に、核兵器廃絶と平和を必死に訴え続けてきました。この努力は今、世界へと広がっています。しかし人々の平和への願いにもかかわらず、今なお大量の核兵器が存在し、憎しみや報復による戦争が絶えません。
 僕は今回の研修で、広島の声と願いを聞き、戦争と核兵器はあってはならないのだと、しっかりと学ぶことができました。

もっとくわしく！

派遣生徒の報告は、白根市ホームページでもご覧いただけます。

ともしび 平和の灯火をつなげたい —広島から白根へ—

広島平和祈念式典派遣生徒報告会



8月31日、白根学習館ラスベックホールで、広島非核平和研修に参加した市内8人の中学3年生が、感じたことや思ったことを発表しました。

8月5日から7日まで行われた研修は、今年で12回目。平和祈念式典への参列、平和記念資料館の見学、被爆者体験講話の聴講などを通して、生徒たちは原爆や戦争について考えました。今度は自分たちが、広島から学んだことを学校や地域で広めようとしています。各校代表4人の報告をご紹介します。

▲被爆体験講話者の小松さんと派遣団（8月7日、広島にて）



わたしにできること



大屋 陽
(白根北中学校)

本当の平和とは



川又健太郎
(白南中学校)

広島は、アメリカからのたった一つの原子爆弾で、跡形もなくつぶされた。たたく人々が亡くなり、平和だった街も一瞬にして炎に巻かれ、暗闇へと変わりました。人々のうめき声や、「水をくれ」という声が街中に響き渡り、すさんだ様子だったようです。
 わたしは日本人は、五十八年前のアメリカの行為を一生許すことはできません。けれども、このことを報復という形にしてはなりません。原爆の被害に遭われた方々は、強くそう願っているはずですから。そして報復という形ではなく、わたしたちができることは、原爆の本当の被害を多くの人々に伝え、戦争をしてはならないと感じさせることだと思います。
 もう二度と、人々の笑顔が消えることのないように、わたしはこの先多くの人に原爆のことを伝えていきます。まずは身近な人から、そして世界中の人へとつながるように。

広島での非核平和研修に参加し、今は美しく整備された都市が、五十八年前に一瞬のうちに廃虚になってしまったことを知りました。あらためて原爆の怖さを実感しました。
 僕たちが生きている一見すると平和な時代にも、戦争が起り、核実験が繰り返されていきます。核兵器がもたらす悲劇や核を保有する無意味さを知り、戦争や核兵器のない社会を実現するため、一人ひとりが平和を願う強い意志を持つことが必要です。「戦争反対、核兵器廃絶」の声を挙げることで、小さな力でも大きな国を動かすことができると思います。
 今も後遺症で苦しんでいる人の思い、夢や希望を抱きながら亡くなってしまった人たちの死を、僕たちは決して無駄にしたいけない、繰り返してはならないと思えました。
 この研修は、あらためて平和を考えるための意味深い経験になりました。

- 上の写真は左から、
- 石附 直之 君 (白根第一中)
 - 大竹 亨 君 (白井中)
 - 阿達 大地 君 (白根北中)
 - 川又健太郎 君 (白南中)
 - 田中 正二 校長 (白井中)
 - 小松 清興 さん (体験講話者)
 - 大屋 陽 さん (白根北中)
 - 田中 愛美 さん (白根第一中)
 - 田辺 望 さん (白南中)
 - 田中 由貴 さん (白井中)

影絵しばい「LUNNANながし」

世界中に
平和を！

戦争のない
平和な地球を
子どもたちに
手渡そう！

青い空は
青いままで
子どもたちに
伝えよう！

(上演台本より抜粋)

この日、影絵しばい「どうろうながし」が同時上演されました。これは白根市立図書館が関連資料を基に独自に制作し、図書館のボランティア「しろね・おはなしかご」が演じたものです。鮮やかなライトでスクリーンに映し出される影絵の数々が、原爆で亡くなった人、残された人の思いを印象的に表現。約200人の観客は、熱のこもった「影絵しばい」に大きな拍手を送っていました。